



# 民俗芸能のデジタル化の取り組み

廣田 律子 (神奈川大学教授 / COE事業推進担当者)

COEプログラムの一員として身体技法の調査・分析法の開発と身体技法の比較研究と感性把握の方法論的研究に関わっている。「モーションキャプチャによる東アジアの芸能比較」及び「東アジアの芸能に見出せる除災と招福の感性比較」をテーマとしている。

東アジアの芸能について、客観的なデータを収集する為にモーションキャプチャを使用し、わらび座のデジタルアートファクトリーの長瀬一男氏と海賀孝明氏の全面的協力を得て芸能のデジタル収録を進めている。モーションキャプチャで得られた日本と中国の民俗芸能と伝統芸能のデータから、東アジアの身体技法の特徴を解明しようとしている。

なぜ伝統芸能と民俗芸能かといえば「型」によって身体表現が定型化・様式化された伝統芸能は、上演の場として舞台を意識し、他方いわゆる民俗芸能は、祭儀の場を上演の場とし、神と人が一体となり身体表現が行われる。伝統芸能と民俗芸能の両方のデータを取ると感じただからである。

すでに中国の民俗芸能として石郵村儺舞の2名の演者と日本の伝統芸能から能の観世流シテ方関根祥人氏、民俗芸能から奥三河花祭りの伊藤勝文氏のデータの収録を終えている。

中国江西省南豊県石郵村の儺舞は、20年あまり演じている叶根明氏(36歳)と15年あまり演じている唐賢仔氏(35歳)のデータを収録した。収録演目は『開山』『紙銭』『雷公』『儺公儺婆』『酔酒・酒壺仔』『跳橈』『雙伯郎』『関公祭刀』の8演目全てを収録し、叶根明氏は33テイク、唐賢仔氏は17テイクに及び、データの総量は1ギガバイトに達した。最後に囃子の収録を行なった。

能楽は、観世流シテ方で、2歳の時『老松』で初舞台を踏みすでに芸歴44年になり、今年26回松尾芸能賞を受賞した関根祥人氏(46歳)のデータを収録した。収録した演目は『遊行柳』『百萬』『養老』『敦盛』『猩々(乱)』『熊坂』『石橋』で、これらの演目は、関根氏と相談の上、シテの人体による分類から老人、鬼、神、男、女を、演能

技法及び番組から序舞物、修羅物、切能物、四番目物、脇能物を網羅し収録を行った。

奥三河花祭りは、5歳の時『花の舞』を務めすでに65年近くも演じ、長として花祭りの継承に寄与している伊藤勝文氏(70歳)のデータを収録した。収録内容は、『神鬼』『湯囃子』『翁の舞』『剣の舞』『おつるひやら』、そして基本動作として「ちふひ」「ためな」「かぶり」「はんや」「いりまい」「いもこじ」「つうふ」「こびき」「ざがわり」である。

わらび座デジタルアートファクトリーの協力を得て行っている収録からデータ活用までのプロセスだが、収録では、FILMBOXを用いてリアルタイムで収録し、収録後直ちにプレイバックし収録データの確認を行う。11点における空間(3次元)での位置(x、y、z)方向(x、y、z)の数値データが得られる。次にポスト処理では、ノイズ等の除去を行い、映像収録を見ながら、目的により修正を行う。

次にCGアニメーション制作及びデータ解析、研究段階へと進む。まず動作データを視覚化する方法として、あらかじめ製作された人体の骨格モデルに動作データを反映させ、動作の調整を行い、人体骨格の動作データを作成する。また、動作の評価比較を行う為動作データをグラフ化する。更に分かりやすくする為にキャラクターに人体骨格の動作データを組み込み、キャラクターCGの作成を行う。これによりあらゆる視点から見る事ができ、動作の誇張表現も部位の省略も可能で、CGを用いた新しい視覚評価方法といえる。この際衣装や顔の表情などの情報を極力排し、人体の動きを見やすくしている。

今までのところ中国の民俗芸能の石郵村儺舞の『雷公』を分析する事で 民俗芸能が連続するパターンから構成されている事 東西南北中央が意識されている事 回転跳躍はその軸足と回転方向に規則性が見られ、これは巫女舞等に共通すると考えられる事 演者の個性が明確に出る事等を見出せた。また日本の伝統芸能の能の『石橋』との比較では、跳躍時に右足を軸にして左膝を曲げ腿を

引き上げる事等に共通点がみられる事が分かった。能は回転の方向や軸足に規則性は見出せず、より複雑な構成となっている事が分かった。

先に分析をした『雷公』は演者となって初めての祭りの前の15日間位で覚えてしまう覚えやすい演目とされる。分析の中の にあげた回転・跳躍はその軸足と回転方向に規則性が見られるという点について、少し説明を加える。

『雷公』はパターン繰り返しで構成されている。中でもその回転方向は時計の回転方向を順として、逆・順・順、逆・順・順が規則的に繰り返され、軸足も右・左・左・右・左・右と規則的に変化する。これは日本の巫女舞に共通している。跳躍は跳躍時に膝を曲げ、腿を高く引き上げた跳躍の方法を取り、これは能の『石橋』にも共通するアジア的跳躍であるといえる。

すでに6月に中国江西省で開催の国際舞文化研究会及び7月にお茶の水女子大学比較日本学研究中心主催の比較日本学の試みにおいて研究発表を行った。

引き続き分析を進める事で、東アジアの芸能の特徴が明らかになるであろう。そして芸能間を比較する方法の開発も可能となると考える。

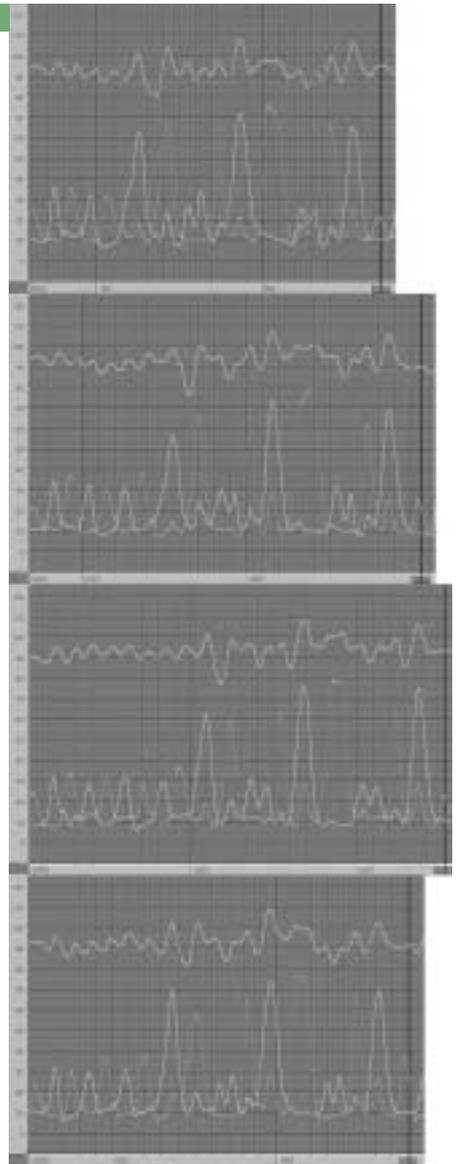
研究において調査研究協力者の岡本浩一氏が中心となり分析にあたった事をつけ加える。

図1



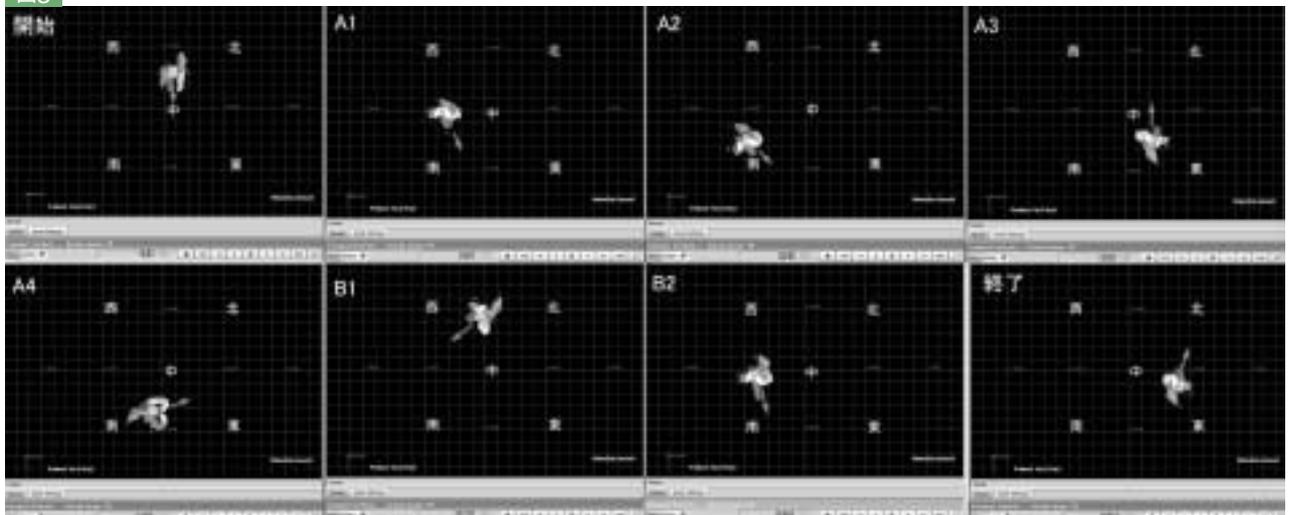
『熊坂』収録時の関根祥人氏

図2



『雷公』のパターングラフ

図3



CGモデルによる方角の確認画像(『雷公』)